ニンニク栽培技術情報　Ｎｏ１

平成２８年４月６日

ニンニク生産者各位

ＪＡ営農支援課
ニンニク生産班

ニンニクの防除及び追肥について

本年は雪解けが早く、３月中旬以降の気温は平年をやや上回って推移しております。
今後、気温の上昇とともに成長期を迎えますので、以下を参考に防除及び追肥等の管理をお願いします。

１．防　除

・春 腐 病
(1)症　状
融雪後の３～４月頃は葉の先端部からの腐敗が多く、５～６月頃に茎が肥大してくると、下位の葉身基部から腐敗の発生が多くなる。症状が進むと株全体が腐敗し、枯死や葉数の減少、りん片の肥大阻害などの影響が出る。腐敗株は種子りん片を切ると内部が腐敗している。好天により症状が一時的に停滞することもあるが、降雨毎に被害が拡大していくため、罹病株は見つけ次第抜取り圃場外に排除する。
(2)使用薬剤：下記薬剤のどちらかを選択

薬剤名	使用倍率	備　　考
Ｚボルドー	500 倍	発生後の防除では効果が劣るので、発生前及び発生初期防除に努める。展着剤を使用し散布する。
バリダシン液剤５	800 倍	

・葉枯れ病
(1)症　状
多雨年に発生が多く、初め白色の小斑点が発生するが進行するにつれ、葉脈に沿って赤褐色で楕円形の病斑を形成する。多発すると葉全体が黄化、枯死する。また、ニンニクのりん片に侵入した場合は腐敗し、悪臭を放つ。連作により蔓延の可能性があるので注意する。
(2)使用薬剤

薬剤名	使用倍率／使用回数	備　　考
ポリベリン水和剤	1000 倍／3回	展着剤を使用し散布する。

２．追　肥

肥大期(５月)の生育を確保するため追肥を実施する。

【尿素：10 kg／10aＮ成分 4.6 kg】（４月中旬）

砂地圃場など、保肥性の劣る圃場は追肥量を２/３程度に減らし、２回（４月中旬、５月上旬）に分けて散布する。
基肥にＬＰ肥料（ニンニク大玉宣言等）を使用している場合は、地温の上昇に伴い肥効が現れてくるため、生育不良な場合を除き、追肥を控えるか量を減らす等してください。

裏面あり

ニンニク使用薬剤一覧

No	薬剤名	分類	病害虫草	倍率使用量	使用時期	成分名
1	Zボルド-	殺菌剤	さび病 春腐病 白葉枯れ病	500倍	―	銅
2	アミスタ-20フロアブル	殺菌剤	さび病 葉枯れ病	2000倍	収穫７日前	アゾキシストロビン
3	カスミンボルド-	殺菌剤	春腐病	1000倍	収穫７日前	カスガマイシン、銅
4	ジマンダイセン水和剤	殺菌剤	葉枯病	400～500倍	収穫７日前	マンゼブ
5	ストロビ-フロアブル	殺菌剤	さび病	2000倍	収穫７日前	クレソキシムメチル
6	ダコニ-ル1000	殺菌剤	黄斑病 葉枯病	1000倍	収穫７日前	TPN
7	トリフミン水和剤	殺菌剤	葉枯病	2000倍	収穫前日	トリフルミゾ-ル
8	バリダシン液剤5	殺菌剤	春腐病	800倍	収穫７日前	バリダマイシン
9	ベルク-ト水和剤	殺菌剤	葉枯病	1000～ 1500倍	収穫３日前	イミノクタジンアルベシル酸塩
10	ベンレ-トT水和剤20	殺菌剤	イモグサレ センチュウ 黒腐菌核病	種球重量の 0.5～1%	植付前	チウラム、ベノミル
11	ポリベリン水和剤	殺菌剤	黄斑病 葉枯病	1000～ 1500倍	収穫３日前	イミノクタジン酢酸塩、ポリオキシン
12	ラリー乳剤	殺菌剤	さび病	4000倍	収穫３日前	ミクロブタニル
13	アクテリック乳剤	殺虫剤	チュ-リップ サビダニ	1000倍	植付前	ピリミホスメチル
14	アディオン乳剤	殺虫剤	アブラムシ類	2000倍	収穫前日	ペルメトリン
15	オルトラン水和剤	殺虫剤	アブラムシ類 ネギコガ	1000倍	収穫７日前	アセフェ-ト
16	ガ-ドホ-プ液剤	殺虫剤	チュ-リップ サビダニ	500倍	植付前	ホスチアゼ-ト
17	ゴ-ゴ-サン細粒剤F	除草剤	一年生雑草	4～6kg/10ａ	・植付前、植付後雑草発生前 ・収穫60日前	ペンディメタリン
18	ゴ-ゴ-サン乳剤	除草剤	一年生雑草	300～ 500ml/10a	・植付前、植付後雑草発生前 ・収穫60日前	ペンディメタリン
19	ナブ乳剤	除草剤	一年生 イネ科雑草	100～ 150ml/10a	収穫７日前	セトキシジム
20	バスタ液剤	除草剤	一年生雑草	300～ 500ml/10a	・植付前、 畦間散布 ・収穫前日	グルホシネ-ト
21	ラウンドアップ マックスロ-ド	除草剤	一年生雑草	200～ 500ml/10a	・植付前、 畦間散布 ・収穫前日	グリホサ-トカリウム塩
22	ロロックス	除草剤	一年生雑草	100～ 150g/10a	植付前、植付後雑草発生前	リニュロン
23	アプロ-チBI	展着剤				
24	ニーズ	展着剤				